



Servas Japan Tohoku

支部ニュース

No.80



支部長挨拶	1
旅行者受け入れ報告	2
M.S (S市)	
A.N (S市)	
寄稿 1 H.M (F市)	6
寄稿 2 N.T (F市)	7
寄稿 3 T.N (S市)	7

支部長挨拶

希望を持って来年を迎えたい！

T.N

皆さん いかがお過ごしですかTです。新潟県弥彦村ももみじの季節がおわり、このニュースがでるころは初雪をみているころかもしれません。前号のニュースでは、どうしてこんな国になってしまったのかの話をしました。その後、震災復興予算の見直しがあり、震災地に振り向けようという動きがおきつつありますが、他への予算執行を中止するまでに至らないで衆議院が解散となりました。残念です。

さて、どのような時であっても、会員の『出会い、ふれあい、磨きあい』をしていきたいと思っています。今回はA.N会員、M.S会員のトラベラー報告が掲載されています。

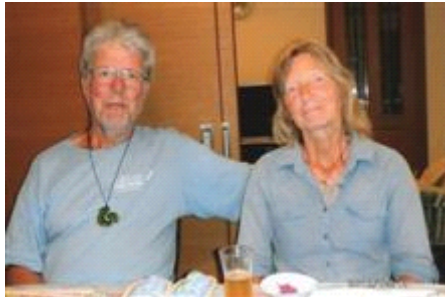
私たちの地域では、隣組（となりぐみ）の仲間が高齢化して、後継者がいない、いても独身などの話題があります。被災地・被災者ではなおさらのことと推察いたします。2年目の年末を迎えることとなりますね。内からの元気を失わないように生きたいものです。

人間は、その生活時間の大半は、食事、睡眠、おしゃべりです。腹八分目の食事、7時間睡眠、仲間との適度な睡眠が人間生活を豊かに、長生きをさせてくれます。どうか年末を迎えて、選挙・組閣がスムーズに行き、安心して暮らせるように来年を迎えたいです。5月の支部総会での再会を楽しみにしています。

旅行者受け入れ報告

① 9月16－18日 S & F 66才 ニュージーランド

M.S (S市)



外国人が日本を旅する時に便利で格安な JR パスを使うことが多いですが、66才の S と F 夫婦はあえて自転車で北海道から九州までの縦断の旅を選んだのです。さらに今回私が最も驚いたことは彼らの自転車がママチャリ自転車(ギヤー変換あり)だったことです。今年の仙台は9月半ばを過ぎても毎日猛暑が続いていましたから、その暑さの中で連日ペダルをこぎ続けている彼らを想像し

てずっと心配でたまりませんでした。

9月16日の夕方、全身汗まみれの彼らが我が家の玄関に立ったときの姿はことばでは表せないほどのものでした。これほど汗で全身びしょりの人を私は目の前で見たのは初めてのことでしたから。

彼らの自転車には寝袋、テント、鍋、コンロ、食料、水筒、衣服などがぎっしりと積まれていて、私では全く持ち上げることができない重さでした。S はかなり細身の女性で四ヶ月間の旅が続けられるのかと疑心暗鬼になったほどでした。そんな私の想いを感じたのでしょうか、仙台を出発してから6日後に「今日無事に猪苗代湖に到着しました」と嬉しいメールが入ったのです。その後も週一回の割合でメールを送ってくれています。11月末に彼らの旅は終わりますが、これからも彼らから挑戦する力をいただくために交流を続けていきたいと願っています。

② 11月6－8日 H. B 43才 モンゴル

M.S (S市)

「人生とは旅である」とも云われます。その旅の途中で私たちはいろいろな人々との出会いをします。私はサーバスの会員になったことでより素晴らしい人々との出会いがあったのではと思っています。H氏との出会いもその一つです。4年前、仕事でモンゴルに行く夫について行って彼女に初めて会いました。彼女は広島大で博士号をとるために6年間も広島に住み、その間にサーバスを知りました。帰国後、モンゴルで最初のサーバス会員となりました。残念ながらサーバス会員はなかなか増えませんが、今年の5月と9月に夫はモンゴルに行きましたが、その度に大変にお世話になりました。

夫は今年9月のモンゴルに行ったとき、3つの小学校を訪問しました。H氏がすべて計画をしてくれて実現したことです。子どもの数が増えているのに学ぶ学校の数少なく2～3



交代で、3時間だけしか勉強出来ないことを夫は知りました。一週間の滞在の間で、訪問した学校に中古ですがオルガン、机、イス、キャビネット、ロッカーなどを贈る話が決まり、Hさんの来仙が急遽決まり我が家に3日間でしたが滞在してくれました。私にとっては4年振りの再会でした。

懐かしくて、楽しくて夜遅くまで話しをしました。温かい時間を過ごし、再々会を約束しました。

校長に挨拶
H氏と妹のS氏(中央)



③ ニュージーランド S・F さんのご夫婦

9/17 初めての Day Host

A.N (S市)

去る9月17日(月)敬老の日、ニュージーランドから日焼けしてたくましいご夫妻、S and F さんをお迎えしました。

60代半ばなのに何と自転車で日本一周をめざしているとのこと!!

7月20日、札幌に着いてから、北海道を一周、その後、青森県から南下し、三陸海岸、北上川沿い、石巻、矢本、利府、そして仙台でした。

お昼前、ちょうど私らが、昨年1月中旬にNZに行ったときのDVDがあつたので、それをお見せしながら、歓談しました。私らが帰国した1ヵ月後、宿泊したクライストチャーチで大地震が起こったこと、ドイツにおけるお二人の若い日の出会い、NZに渡ってからのことなどいろいろお聞きしました。昼食・デザート後、テントでしか休んだことがないというので、畳の上に布団を敷いて、2時間ほど昼寝?していただきました。

再び、NZの国勢、食事、不要な交通信号などに話が弾み(勿論、私は下手な英語ですが)、やがて夕食。缶ビールをお出ししたのですが、つまみには手をつけず(最後には食べてくれましたが)専らおかずの方を食べ、飲んでいました。ユーロが大きくなり、NZからの輸出が減ったこと、震源地の海溝のこと、日本の津波の被災地の生々しい現実、いろんなことが話題になりました。Fさ

学校備品 モンゴルへ

大郷町旧味明小の机や椅子、オルガンなど

【黒川支局】3月に統合で閉校になった大郷町旧味明小の机や椅子がモンゴルの小中学校で使われることになり、7日、味明小で引き渡し式が行われた。モンゴルでは2005年に義務教育が10年間から12年間に引き伸ばされたため児童・生徒数が急増し、備品や施設が圧倒的に不足しているという。12月末にも現地に届けられる。

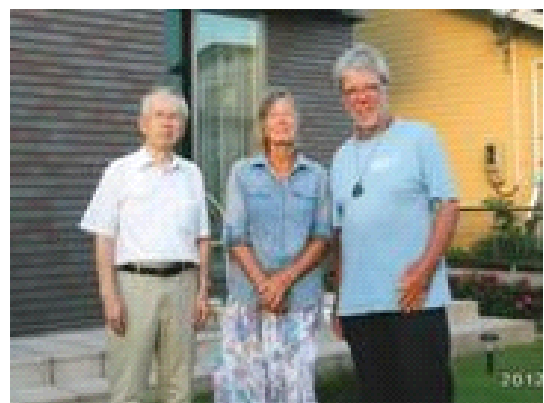
24トンコンテナ2台分

来月末 現地小中学生の下に

車輪出業のBPTレーディング(本社・大郷町東成田)が4月にモンゴル首都ウランバートル市に事務所を開設したことがきっかけで、モンゴルの教育事情を知った。社長(87)が町に寄付を提案した。送られるのは子ども用の机3002台や椅子1001脚のほか、オルガン、跳び箱、黒板、ピアノ、アコーディオン、ロッカーなど、24トンコンテナ2台分。輸送費45万円は同社が負担する。

引渡し式にはモンゴル側を代表して文部科学省プロジェクトコーディネーターのさん(43)が出席し「モンゴルは子どもがたくさ

ンゴルのある学校では教室や備品が足りないため子どもを3回に分けて登校させていて、そのため授業時間は一日3時間ほどだったという。大郷町の備品はウランバートル市などの7校に配置される予定。味明小は老朽化のため本年度中に解体工事が始まり、跡地は企業誘致に活用されることが決まっている。



んは、さしみ・天ぷら・フライなど次々と皿を平らげ、しまいにはご飯に醤油をかけて食べていました。ご飯とおかず、お汁を交互に食べることはないんですね。

夜8時過ぎ、事務局長の M.S さん宅に車で家内が送りましたが、彼らの自転車に積んであるものすごい荷物の量にびっくりしました。後日、M.S さんから彼らからのメールが転送されて来ました。北海道～福島の記事、南三陸の被災地での体験、九州・四国を回り、最後は大阪という計画。そして我々日本での最初のサーバスホストへの感謝の言葉が述べられていました。

彼らに比べたら、今の私らの暮らしはとてふがいないのですが、年寄りでも諦めてはいけない、元気に過ごせるのだと、外国の方にかえって励まされた気がいたします。

S さん、F さんありがとうございました。

④ フランス A さんのご夫婦 10/25～26

A.N (S 市)

わが家に初めてのサーバスゲストをお泊めしました。フランスのリヨンからいらした A さんです。

電話をもらい、主人とふたりで地下鉄泉中央駅に迎えに行きました。駅前に自分の背丈ほどの大きなリュックを背負った女性が立っていたので一目でわかりました。



お話から推察すると60代半ば、やせ型で日本人とそれ程変わらない体型、よくもこんな重い荷物を持って一人で仙台まで・・・と思いました。簡単な自己紹介の後、「テレフォンカードはどこで売っていますか？誰に訊いてもわかりません、と言われます」とおっしゃる。そうでしょう、若い人たちは見たこともないでしょうから・・・。私にはピンと来ました。もう店じまいしそうな駅の売店に走り、get!

家に着いていろいろ伺いました。20年ほど前、京都で1年半ほどフランス語の先生をなさっていたとのことで、お互い日本語と英語のミックスでコミュニケーションができました。今回、日本にやって来た目的は、被災地でのボランティア活動。フランスで募金を呼びかける活動ををし、二度ほど赤十字に送金したが、どうしても現地でボランティア活動をしたいという思いに駆られ、テントと寝袋を背負ってやって来たという訳でした。

大震災や津波の当時の新聞や写真集を持ち出して説明していたちょうどその時、石巻で震度5弱の地震、仙台も久しぶりに大きな揺れになったので、私はびっくり。アンさんもフランスにはこんな地震はありません、と言いながら怖そうな表情をしていました。まさか地震まで体験しようと思って来た訳ではなかったでしょうから・・・。

京都に住んでおられたという事で大変な日本通でもありました。床の間、俳句、生け花、盆栽などの言葉がポンポン出て来ます。京都では銀閣寺の傍に住み、暖房はこたつ、週に3回は銭湯に通っていたというから今の日本人より日本的です。

話に花が咲き、夕食はすっかり遅くなってしまいました。箸を上手に使い、用意したものはほとんど食べて頂けたので作った方もホッと安心。お風呂は銭湯に慣れていらっしやったので、説明の必要もなく、ゆっくり入って頂きました。寝るのはベットと布団とどっちがいいかとお訊きしたら、日本式がいいというので畳の上に布団を敷いて休んで頂きました。

次の朝、食事の前に家の近くを散歩しました。「カラオケ店がどうしてコートダジュールなの？フレーズはいちごという意味です。」と言いながら、フランス語が使われている看板が面白いとパチパチ写真を撮っていました。

午前中、仙台荒浜の被災地へ案内しました。1年半以上も経ったのですっかり片づいていましたが、ポツポツと残る家や土台、学校のたたずまいに、昨日お見せした被災当時の写真を思い描いていらっしゃるようでした。どこまでも続く瓦礫・・・冷蔵庫の山・パソコンの山、木の根の山・タイヤの山などを見て、「Terrible!」を連発されていました。また立ち並ぶ焼却炉や行き交う全国からの大型トラックを目にし、現地の悲惨さそして復興への協力を感じとられたようでした。

午後は、松島の瑞巖寺・円通院・観瀾（らん）亭を訪ねました。円通院は、紅葉を期待して行っただけなのですが、まだ始まっておらず残念でした。それでも A さんはとても気に入って下さり、「Beautiflle!」を連発されていました。最後に松島の全景を一望してもらいたいと思い、山の上のホテルの7階でティータイムを持ちました。次第に暮れゆく島々、ちょうど真上に月も出て、その美しさに心から感動し「今日は、日本の一番ひどい状態にある所と一番美しい所と二つの極端を見たような気がします」とおっしゃっていました。

ボランティアセンターが多賀城市にあり、6時から打ち合わせがあるということで、その近くで夕食を取ることにしました。どこに入ろうかと話し合っているうちに初めて分かったのですが、何と彼女はベジタリアンだったのです。そんなに厳しくなく、魚はOKということでしたので中華料理店に入りました。昨夜は魚と野菜中心の食事でしたので辛うじてセーフ。今朝はソーセージだけ残したので、おや？嫌いなのかな？と思っていました。海外の方は結構ベジタリアンの人が多いというのは知っていましたが、改めて確認するのを忘れていました。これが初めての Host の反省点です。お聞きすれば A さんもサーバスに入会してまだ1年。わが家が初めてのスティ先だったそうです。

A さんはネィティブの英語スピーカーではないので、ゆっくり、はつきり話をされます。私は聞き取りやすかったです。年代も同じなので話題も途切れることなく、お国の経済の話、若者の失業の話、移民問題など幅広くお話を聞かせて頂きました。一番羨ましいと思ったのは、フランスではだんだん子供の数が増えて来ているということ。児童手当が、二番目三番目と増していくような仕組みになっているということでした。ボランティアセンターを捜し出し、A さんとお別れをした時は、もう6時を過ぎ、真っ暗になっていました。

二日後、仙台駅を出発する直前に電話をくださいました。二日間浜や田舎の方に行って、家の中から木片を運び出す仕事をしてきたそうです。若い日本人のボランティアの人たちが大変親切にしてくれ、仕事先の近くの温泉で露天風呂に入ってきたと大変満足そうでした。疲れないといいがと心配していたのですが、仙台を離れるまでエネルギッシュな話し方だったので安心しました。

5カ月前、私共はリヨンを訪れたばかりだったので、もう少し早く知り合っていれば、リヨンでお会いできたのにとお互いにそれだけが残念でした。A さんもそう言っておられ、是非リヨンに来てくださいとおっしゃっていました。

【寄稿 1】

NHK、教育テレビ「Trad Japan」を見ましょう。

H.M (F市)



外国人に日本の文化・習慣を伝えたいと思っても、自分自身が良くわかっていないんだもの説明なんて出来ません。こんな時役に立つのがNHK Eテレで放送されている「トラッドジャパン」という番組です。テキストも販売されています。

Servas ゲストではなく、単なる旅行者でしたが、インド人家族が日本を旅しました。家族とは主人 N 氏 52 歳と奥さん、アメリカで仕事上の息子 21 歳を日本に呼び出した 3 人連れ。

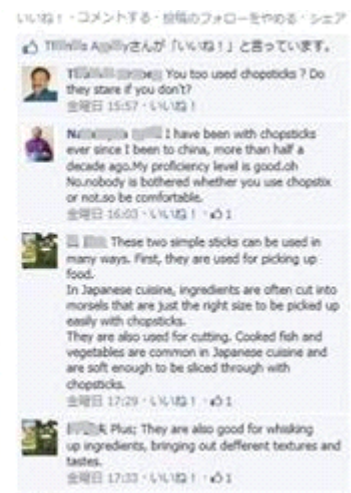
私は彼等を「日光」に同行案内しました。その後家族は京都、広島、鎌倉、と東京浅草・銀座を巡り帰国しました。N 氏は旅をしながらと帰国してから”日本の今”を写真に撮り自分の Facebook に掲載しています。

(注 ; Facebook とは Interactive な対話形式のブログです。)

私は写真が掲載された都度、突っ込みのコメントを書き込みしてやりました。このとき大いに役立ったのが「トラッドジャパン」のテキストです。

たとえば、彼等が築地で寿司を食べた時の写真です。

この写真をインドから見た、彼の友達 T 氏は「箸」を使えるのか？って尋ねています。



Facebook では上記写真の右側を対話に使います。ここに記載された対話を要約すると以下のようなことが書かれています。

T--- ; あれ？君も箸つかってんか？ まわりの人驚いていないか？

N--- : 5 年以上前に中国に行って以来、使えるようになったのさ、俺が箸を使いこなす技術は相当高いよ。

この対話を見た私は「トラッドジャパン」のテキストから引用しコメントを書き込みました。
H.M ; これら素朴な 2 本のステックはステック (棒) でありながら多様な機能を持っています。まずは食べ物をつまむこと。日本の食べ物の多くは箸でつまみ易い大きさです。箸は食べ物を切るのにも使います。日本の料理は魚も野菜も簡単に切れるように煮炊きされるのです。つづけて補足しました。

H.M; 加えて、箸で食材を混ぜ合わせることも出来ます。新しい食感と味を生み出せます。

-----話題変わって

日本という国を全く知らない人には **Tokyo** と **Kyoto** って語で混乱してしまいますね。彼等が東京から京都へ行ったところで、インド国内の友人は混乱していました。

以下は Facebook から切り取りました。

私は東京と京都の違いを説明し感謝されました。
以上。



【寄稿 2】

この頃 思うこと

N.T (F 市)

ずばり 復興予算の使い方です。
その御金を まず 除染に使ってほしいのです。原発事故後 2年になろうとしているのにようやく除染方法について説明があったばかりです。あまりに 遅すぎます。もちろん 我々は 個人でも町内会の定期の活動でも実践してきました。特に 国会議員の皆さん、一度 福島に来て 除染活動に 参加してください。体を張って行動する人に私は 投票したいと思っています。

【寄稿 3】

Peace Secretary 報告

T.N (S 市)

私（東北支部）は Peace Secretary として震災復興支援活動をしている「Volunteer 311 みやぎ」に参加しております。中でも高校生を中心とした軽音楽の指導や演奏会の開催をしている青少年軽音楽フェスティバル実行委員会は本年3月27日に続いて12月9日に演奏会を開催しましたので報告いたします。

東日本大震災復興支援プロジェクト「青少年軽音楽フェスティバル 2012 第7回 杜の都ロックコンサート「With You」を開催しました（青少年軽音楽フェスティバル実行委員会）

実行委員長 T.N)

本団体は、昨年の3月末から東日本大震災復興支援プロジェクトとして活動する「Volunteer311 みやぎ」に参加し、他団体・ボランティアと協働して気仙沼市本吉地区小泉や石巻に衣類、食料、什器、毛布、紙おむつ、タオル、消毒薬、マスクなどを届けてきました。

昨年10月には、地元本吉のはまなすホールで「第5回ロックコンサート in はまなす」を開催し、津谷中学校の吹奏楽部を招待して現地ライブを実施し、今年の3月には「ZEPP 仙台」において「第6回 杜の都ロックコンサート「Teach In Zepp」」において関東と宮城の高校生の交流を図ってまいりました。

さらに8月4日実施の「子どもの音楽再生基金プロジェクト・・・スクールミュージックライブ（坂本龍一氏監督）」の現地宮城スタッフとして実行委員会に参加し、これがきっかけとなって11月24日にはグレンミラーオーケストラが津谷中学校を訪問し吹奏楽部とのセッションにつながりました。

2009年から始めましたこのイベントは、1960年代から始まりましたハードロックといわれるジャンルの曲を演奏しあうことで、演奏者相互の知識や技術の交流を深めることを大きな目標としております。特に、大人世代が高校生の時に耳にした楽曲を演奏することで、世代を超えた話題の共有と交流のきっかけとなることを望んでおり、今回で7回目を迎えました。

今回も Queen、Deep Purple、AC/DC、Journey、Oasis といった幅広いジャンルから30数曲を宮城と関東地区の高校生に加えて、高校の先生方や大人のバンドなど14組が楽しく演奏しました。

特に大震災後は、音楽を通して高校生諸君が抱く様々な「思い」を共有する場と機会になって欲しいと願い、昨年からの活動経過などを展示し、活動を確認する機会としました。特に、12月23日に実施する「お餅つき」について物心両面からの支援を会場で呼びかけました。

○ 実施概要等

期日 2012年12月9日（日曜日） 12：30 開場 13：00開演
会場 学校法人菅原学園 専門学校デジタルアーツ仙台 6Fライブシアター
入場料 無料
主催 青少年音楽フェスティバル実行委員会
後援 Volunteer 311 みやぎ
協力 専門学校デジタルアーツ仙台、音屋スタジオ、日本サーバス Peace Secretary、株式会社エピキュラス

お願い

12月23日に現地で餅つきをします。同時に子供たちにクリスマスのプレゼントをしようとあらかじめリクエストを伺いました。

Aちゃん 0才 「おままごとセット」。**Bちゃん 0才** 「やりたい放題」。**Cちゃん 9才** 「DSのカセットニンテンドッグスのチワワ」。**Dくん 13才** 「CD プレイヤー」。**Eくん 14才** 「ソフトテニスボール10個と空気入れと水を良く吸う大きいスポンジ」。**Fくん 15才** 「プラモのHG ダブルオークアンタとガンダムマーカークーデック、黒は拭き取りタイプ」。**Gさん 15才** 「漫画テガミバチ連載」。**Hくん 15才** 「漫画新テニスの王子様5巻～9巻」。
（手芸クラブ 「毛糸、端切れ（これまでと同じ）」

当日夜は今年初めての宴会をするそうです。何かプレゼントしたいという方は火曜日までに連絡をください。連絡のない物品についてはこちらで購入して持参します。



小泉中学校北側。津谷川の向こう側にがれき処理場ができつつある。手前の橋梁は気仙沼線。右下は国道 45 号線（2012 年 10 月 24 日撮影）



小泉小学校北側に建つ記念碑、右は碑文
碑には、バーコードが刻まれています

未来の人びとに
二〇一一年三月十一日 午後二時四十六分
東日本大震災が起これり
大津波が太平洋沿岸に襲来した。
気仙沼市小泉地区は大被害を受け
多くの命と家を失ってしまった。
学んだことは「地震があつたら津波が来る」
ともかく上へ上へと逃げることに。
「てんでんこに逃げよ」
その教えを伝えたい。



編集後記

支部ニュース No. 81 をお届けします

モンゴルにサーバスができたこと嬉しく思います。テレビでも報道されていましたが、モンゴルのストリートチルドレンの姿にやるせない気持ちでおりましたが、M.S さん（事務局）のご主人がモンゴルの小学校に机や椅子を運んでいたと知り、何か私たちもできないことがないか考えようと思います。また、震災の瓦礫が北米やアラスカに到達しようという報道に、関わっている現地のボランティアに対する支援もまた必要な気がしてなりません。（T.N）